
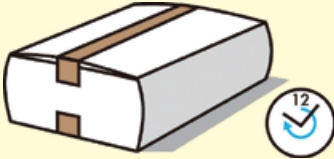






# テープの選び方

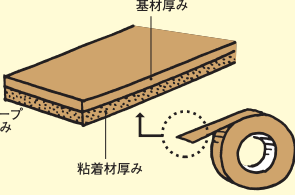
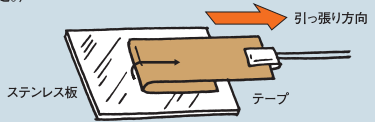
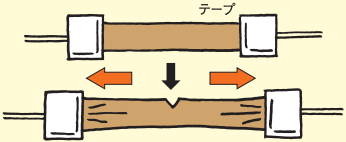
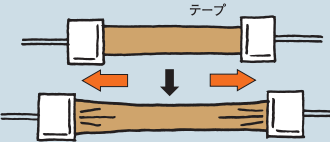
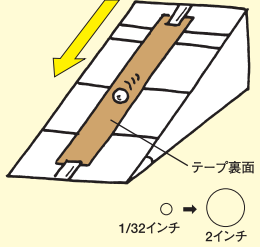
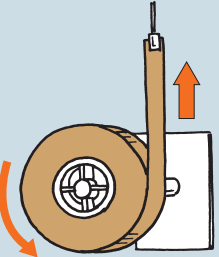
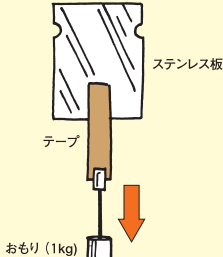
テープの特性を最大限に生かすために、下記のポイントをご参考に粘着用途にあった最適なテープをお選びください。

<p><b>1</b> 用途は粘着か、再はく離か? ●用途に合った粘着特性。</p> 	<p><b>2</b> テープにどんな力か、どのくらいの強さで、どのくらいの時間がかかるのか? ●反発力に合ったものを。</p> 	<p><b>3</b> 作業環境(手貼り、機械貼り、作業面積、作業時間、作業人員)を検討! ●梱包作業をスムーズに行えるテープを選びを。</p> 
<p><b>4</b> 環境条件(屋内外、温度、湿度、溶剤、薬品等)は? ●使用環境にあったものを。</p> 	<p><b>5</b> 輸送条件(輸送方法、保管条件、開梱方法等)は? ●確実に目的地に着き開梱しやすいテープを。</p> 	<p><b>6</b> その他の機能(保護、マスキング、表示等)は? ●識別用途など目的に合ったものを。</p> 

## 使用上のご注意

- 包装用テープは、ダンボールケースの封かん・宅配便や小包みなどの荷造り用です。その他の用途には使用しないでください。
- 人体に直接貼らないでください。
- 電気絶縁用には使用しないでください。
- 貼る面のほこり、油分をよくふき取ってから貼ってください。
- 貼るときにしっかりと押さえてください。
- テープの保存にあたっては、暗所で低温度、低湿度の場所に、ロールの側面を下にして保存するのが最も良い方法です。
- ご使用前に、各製品に表示されている「使用上のご注意」をご確認ください。

# テープ性能表示

<p>テープ性能表示は、一定の条件で試験された製品評価です。使用目的、使用条件などのご参考にしてください。</p>	<p><b>●テープ厚み／基材厚み</b></p> <p>引張強度が強く、厚いほど引張強度が高くなります。</p> 	<p><b>●粘着力</b></p> <p>ステンレス鋼にテープを貼り付け、180°または直角に引っ張り、はがれた時の力を測定します。数値が大きいほど粘着力が強くなります。(本カタログでは180°で数値を測定。)</p> 
<p><b>●引張強度</b></p> <p>テープを引っ張り、切断した時の力を測定したのが引張強度です。数値が大きいほど、フィルムベースの強度が高いといえます。</p> 	<p><b>●伸度</b></p> <p>テープの長さ方向に引っ張り、曲面、凹凸面に順応する能力を評価します。数値は%で表示され、150%の場合1mのテープが2.5mまで伸びるということです。</p> 	<p><b>●タック</b></p> <p>粘着剤に荷重を瞬間的に加えた時の粘着力。30°の傾斜台の上から、直径1/32から2インチまでの鋼球をころがし、粘着面で止まる最大鋼球で粘着力を計測します。</p> 
<p><b>●展開力</b></p> <p>1分間に、60mのスPEEDでテープを展開した時の引張荷重を表すもので、数値が低いほど展開の軽いテープとなります。</p> 	<p><b>●保持力</b></p> <p>ステンレス鋼にテープを貼り、1kgの重りを垂直に下げて2時間後にスレた長さを計測。数値が小さいほど、スレに強く反発力のあるダンボールをしっかりと封かんすることができま。</p> 	<p>■単位／本カタログでは国際単位系(SI)を基準に、性能値を表示しています。なお、従来の性能値については、( )内にて併用表示しました。</p> <p>■測定法／JISZ0237の粘着テープ試験法に基づき、温度23±1℃、相対湿度50±5%で測定しました。</p>